慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	形容詞とジェンダーステレオタイプ : 類義語間に見る共示の違い
Sub Title	
Author	永野, 麻季(Nagano, Maki) 霜崎, 實(Shimozaki, Minoru)
Publisher	湘南藤沢学会
Publication year	2004-03
Jtitle	教員推薦による学生論文
JaLC DOI	
Abstract	本書は、語の共示 (connotation)としてのジェンダーステレオタイプについての考察を目的とし、その中心は「辞書的には類義語の関係にある形容詞間で、ジェンダーステレオタイプは一致するのか」ということに置いている。類義語関係にある２つの形容詞10組についてジェンダーステレオタイプを比較し、この調査結果を踏まえて翻訳における訳語選択についても論を展開している。
Notes	2003年度卒業制作
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0302-0000-0459

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

SFC−2003−003

形容詞とジェンダーステレオタイプ

—類義語間に見る共示の違い—

慶 應 義 塾 大 学

環境情報学部4年　永 野 麻 季

「教員推薦による学生論文」推薦のことば

本研究は、類義的な関係にある性格描写の表現を取り上げ、それらが男性ステレオタイプと連想されるのか、あるいは女性ステレオタイプと連想されるのかを実証的に明らかにしようとしたものである。例えば、「頑固な」と「意地っ張りな」、「好奇心旺盛な」と「詮索好きな」、「あどけない」と「無邪気な」、「活動的な」と「元気な」など、類義的な関係にある10組の表現を選択し、それぞれが男性特有の性格表現として受け取られる傾向があるのか、あるいは女性特有の性格表現として受け取られる傾向があるのかを、アンケート調査を基に考察したものである。

基本的な問題意識としては、辞書的に類義語とされる性格描写の表現があるとき、それらが人に想起させるジェンダーステレオタイプは一致するのだろうか、というもので、結論的には、取り上げた10組の表現の多くが、ジェンダーステレオタイプにおいて異なった志向性を示していること、つまり、denotationとしての共通する表現であっても、connotationとしてのジェンダーステレオタイプが異なるという事実が明らかにされた。本研究では、さらに、F. S. Fitzgeraldの "Babylon Revisited" の原典と複数の訳者による翻訳を言語資料として翻訳分析を行い、英語の性格表現がジェンダーステレオタイプの観点から的確に翻訳されているのかどうかについての考察を試みている。

本研究は、ジェンダーステレオタイプに関する先行研究を踏まえて、一連の類義的な性格表現を分析したものであるが、本研究での結論は、あくまでも暫定的なものとして理解されるべきである。本稿では考察されていないが、被験者の性別、年齢、社会的背景などの要因によって、ジェンダーステレオタイプの判断が異なることも予想されるので、今後の研究の発展に期待したいところである。ただし、ジェンダーステレオタイプの研究と翻訳分析を絡ませたとこ

ろに本研究のユニークさがあり、翻訳分析の方法論として新たな切り口を提供している意味において有意義な研究だといえる。

慶應義塾大学
環境情報学部教授
霜崎　實

2003年度卒業制作

形容詞とジェンダーステレオタイプ

―類義語間に見る共示の違い―

霜崎實研究会所属
環境情報学部4年　永野麻季
学籍番号　70057220

論文要旨

本研究は、語の共示（connotation）としてのジェンダーステレオタイプについて考察することを目的としている。人間の性質を表す形容詞[1]に注目し、それらとジェンダーステレオタイプの関係について調査を行った。どのような形容詞が男性ステレオタイプまた女性ステレオタイプをもつかということは先行研究に学ぶこととし、本研究の考察の中心は「辞書的には類義語の関係にある形容詞間で、ジェンダーステレオタイプは一致するのか」ということに置く。

104 名の被験者を 52 名ずつ 2 グループに分け、A グループの被験者には形容詞 10 項目を含むアンケート A、B グループの被験者には形容詞 10 項目を含むアンケート B への回答を求めた。形容詞 10 項目はそれぞれ A と B で類義語関係にある（例えば A1 が「頑固な」、B1 が「意地っ張りな」でこの 2 語は類義語関係にある）。そして類義語関係にある 2 つの形容詞 10 組について、そのジェンダーステレオタイプを比較した。その結果、外示的には類義語関係にある形容詞同士でも共示としてのジェンダーステレオタイプは一致せず大きな揺れが見られた。またその揺れの大きさは当初の予想以上のものであった。中にはジェンダーステレオタイプが逆転しているという例も見られた。

この調査結果を踏まえて「共示の翻訳」について考察を深めるため、翻訳における訳語選択についても論を展開する。「人間の性質を表す語の訳語選択によって共示、とりわけジェンダーステレオタイプにはどのような違いが生じるか」という視点に絞り、F.S. Fitzgerald の"Babylon Revisited"を資料として翻訳分析を行った。具体例を分析してみると、訳語選択の違いによって生じる共示の異なりは明らかであった。

abstract

This paper examines the gender stereotypes as the connotation of the word. The purpose of this study is not to assess the gender stereotypes held by people, but to compare the gender stereotypes between two describing words that describe personality characteristics. The two words are synonyms.

We asked 104 people whether certain characteristics are associated with being masculine or feminine. The subjects are divided into two groups (52 people each), and 52 subjects in the group A reply to the questionnaire A with 10 questions, another 52 subjects in the group B reply to the questionnaire B with 10 questions. Each question contains one describing word and the describing word of A1 and that of B1 are synonyms, so we can get 10 pairs of synonyms. The resultant data shows that the gender stereotypes of two describing words (synonyms) differ widely.

Based on the result of this examination, we consider the translation of connotation. First, we pick up several words describing personality characteristics in "Babylon Revisited" by F.S.Fitzgerald, and then compare the original text with the three Japanese translations in order to find out what differences arise on the gender stereotypes.

【キーワード】

1.外示(denotation)　2.共示(connotation)　3.ステレオタイプ(stereotypes)　4.ジェンダーステレオタイプ(gender stereotypes)　5.形容詞(describing words)　6.類義語(synonyms)

目次

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2. 外示と共示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2.1 「外示」と「共示」から成る言語の意味構造・・・・・・・・・・・・・・・・5
2.2 ふたつの「共示」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
2.3 「共示」はどのように作り上げられるか・・・・・・・・・・・・・・・・・7
3. ステレオタイプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
3.1 ステレオタイプとは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
3.2 共示としてのステレオタイプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
3.3 ジェンダーステレオタイプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
3.3.1 「ジェンダー」という言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
3.3.2 性別についての思い込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
3.3.3 どのようなジェンダーステレオタイプがあるか・・・・・・・・・・・・・10
4. 形容詞とジェンダーステレオタイプ・・・・・・・・・・・・・・・・・11
4.1 先行研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
4.1.1 柏木 1967, 1972・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
4.1.2 Rosenkrantz, Vogel, Bee, Broverman, and Broverman 1968・・・・・・・13
4.1.3 伊藤 1978, 1997・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
4.1.4 Williams & Best 1982・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
4.2 形容詞とジェンダーステレオタイプに関する調査・・・・・・・・・・・・・18
4.2.1 調査目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
4.2.2 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
4.2.3 調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
4.2.4 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
5. 翻訳における語の選択・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
5.1 "Babylon Revisited"に見る訳語選択・・・・・・・・・・・・・・・・・27
5.2 訳語選択の重要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
6. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

1. はじめに

日々、数え切れないほどの単語が私たちのまわりを飛び交っている。それらの多くについては、辞書の上でその意味を確認することができる。しかし、ひとつの単語を耳にしたとき、あるいは目にしたとき、私たちの頭の中には辞書的な定義以上の何かが描き出されている。例えば、「病院」という語を辞書で調べてみると「病人を診察・治療する施設。医療法では 20 人以上の入院設備を備えるものをいう。」（広辞苑第五版）とある。これはあくまでも辞書的定義であって、実際に人が「病院」という単語に触れたときにはこれ以上の何かをイメージしている。入院中の病室をイメージする人もあれば、注射をイメージする人もあるだろう。病院を舞台とするドラマを思い出す人もいるだろうし、病院勤めをしている人は仕事について考えるかもしれない。

本論文では、「辞書的定義を超える単語の意味」について考える。扱う単語は人間の性質を表す形容詞に限定し、ジェンダーステレオタイプを切り口に「人間にとっての単語の意味」、すなわち「ひとつの単語が人に何を想起させるか」を明らかにしたい。より実証的な研究とするために、アンケート調査を行った。まず、第２節では「外示と共示」、第３節では「ステレオタイプ」について、その概念の説明を述べる。第４節の前半では先行研究から、どのような形容詞が男性ステレオタイプをもち、どのような形容詞が女性ステレオタイプをもつのかを学ぶ。そして第４節の後半で、独自に行ったアンケート調査の結果を分析、考察する。これが本論文の主要部分となる。最後に第５節において、翻訳における語の選択の重要性や語の違いから生じる共示の違いについて考える。

2. 外示と共示

言語の意味構造を説明する概念として、外示（denotation）と共示（connotation）がある。外示とは概念の外延、すなわち「ある概念の適用されるべき事物の範囲」を指し、共示とは概念の内包、すなわち「概念の適用される範囲（外延）に属する諸事物が共通に有する性質の全体」を指す。本節では、外示と共示について具体例を交えながら説明する。

2.1 「外示」と「共示」から成る言語の意味構造

言語は、ある特定の「存在」、「出来事」、「性質」、「関係」などの対象を指示する働きをもっている。例えば、「犬」という単語の意味を考えてみる。広辞苑には、「ネコ目イヌ科の哺乳類。よく人になれ、嗅覚と聴覚が発達し、狩猟用・番用・軍用・警察用・労役用・愛玩用として広く飼養される家畜。品種も日本在来の日本犬のほか多数あり、大きさ・毛色・形もさまざまである。」と記されている。「犬」は、先の定義にあるような対象を指し示すということである。このような辞書に見出される「語」の定義、対象指示的意味は言語の「外示」（denotation）と呼ばれるものである。

「犬」という単語には、「外示」といわれる対象指示的意味のほかに、「犬という存在」

が私たち人間にとってもっている「意味」もある。例えば、一般的に「犬」は猫などと比べて「人間に忠実」であり、「献身的」であると考えられている。また、過去に犬に噛まれたことのある人は犬を「怖い動物」であると考えるだろう。幼少期から犬と一緒に暮らしている人にとっては、犬は「家族の一員」であるかもしれない。『忠犬ハチ公』や『フランダースの犬』といった物語から、犬は「人間に尽くす動物」であり「人間の友達」であるというイメージをもつ人も多いだろう。これらは、「犬」という単語との関連でもっている経験や知識に基づいて人間の中で作られる「犬」の意味である。このような二次的意味は、言語の共示（connotation）と呼ばれるものである[2]。

「外示」と「共示」の分離は難しい。例えば、先に挙げた「犬」の例で「よく人になれ」という表現が辞書での定義にあったが、これは明らかに「人間にとっての意味」であるし、見る人によって違うともいえる。しかし、ここで「外示」と「共示」の境界線をはっきりさせる必要はない。「外示」と「共示」の双方を合わせて初めて言語の意味構造が成り立つという認識が大切である。またこのことから、「辞書的定義を超える単語の意味」の存在は明らかであるといえる。

2.2 ふたつの「共示」

「共示」という語が初めて登場するのは、ブルームフィールドの著書『言語』であると言われる[3]。彼は 1934 年のこの著書の中で、ある語の客観的定義としての「外示」と、その同じ語に結び付けられた主観的価値としての「共示」とを対立させている。私も、「共示」が主観的価値であるとする立場をとりたいと思う。そして、この主観的価値をふたつの種類に分けて考えたい。

ここでは、「チョコレート」という語を例にとって考えてみよう。「チョコレート」という語の辞書の上での定義、すなわち「外示」は、「カカオの種子を煎って砕いてペースト状にしたものをベースに、カカオ脂・砂糖・香料などを加えて練り固めた菓子。また、これを水や牛乳で溶かした飲料。」である。では、「共示」はどのようなものであろうか。数多くの人が、「2 月 14 日のバレンタインデーに女性から男性へ贈るもの」という意味を「チョコレート」という語に結び付けているだろう。チョコレートを食べて体調を崩したことのある人の頭には、「食べない方がよいもの」としてインプットされているかもしれない。また、洋菓子店で育った子供にとって、チョコレートは家庭を思い出させるものかもしれない。

「共示」をふたつの種類に分けるポイントは、共有性があるか個人性が強いかということである。「チョコレート」という語に結び付けられた「バレンタインデー」という共示は、数多くの人が共有するものである。このような共示は「共有性のある主観的価値」と分類することができる[4]。その他のふたつの共示は、「チョコレートで体調を崩したことのある人」や「洋菓子店で育った人」に限定されるものであり、個人的な体験に基づく共示である。このような共示は、「個人性の強い主観的価値」と分類することができる。図 1 は、こ

こまで述べてきた「外示」と「共示」から成る語の意味構造を図に示したものである。

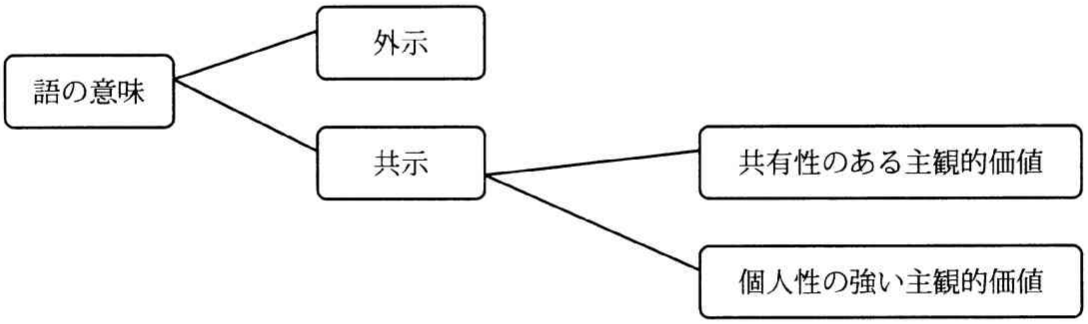


図 1. 語の意味構造

2.3 「共示」はどのように作り上げられるか

「共示」はどのようにして人々の頭にインプットされていくのだろうか。先に示したふたつの共示は性質の違うものであった。そのため作り上げられ方も異なることは想像に難くない。

「個人性の強い主観的価値」としての共示の場合、その共示は直接的な体験から作り上げられ、人々の頭にインプットされる。それは「犬に噛まれた」という体験であり、「チョコレートで体調を崩した」という体験である。自らの体験と直接結び付いているというところがポイントである。

では、「共有性のある主観的価値」の場合はどうだろうか。この共示は体験ではなく、知識から作り上げられる種類のものである。2－1で「一般的に『犬』は猫などと比べて『人間に忠実』であり、『献身的』であると考えられている」と述べたが、これは「犬」という語の「共有性のある主観的価値」である。人は、「犬に忠義を尽くされた経験」や「自分のために犠牲になられた経験」がなくても、このような共示を身に付けている。「何かで見た」、「どこかでそう聞いた」、「犬はそのような動物のはずだ」といった知識から、この種類の共示は作り上げられている。

体験に基づくものと知識に基づくもの、ふたつの共示は人に学ばれるプロセスが異なるのであり、だからこそ個人性と共有性という異なる性質を持つのである。自らの体験と結び付きのない、間接的な情報によって得られる後者の共示は、「なぜ、ある語に対して自分がそのような意味を結び付けているのか」という理由が曖昧であり、現実世界とは異なった実体のないものである場合が多々ある。本論文の主役であるジェンダーステレオタイプは、このようないつの間にか作り上げられている共示の典型であるといえるだろう。次節では、「ステレオタイプ」、「ジェンダーステレオタイプ」とはどのようなものかを述べていく。

3. ステレオタイプ

「ステレオタイプ」という語の定義を広辞苑で調べてみると、「紋切型。常套的な形式。また、型にはまった画一的なイメージ。」とある。例えば「イタリア人は陽気」、「日本人は勤勉」のようなものは一般的だろう。本節では、「ステレオタイプ」とは何なのか、そして多くの人が持っている「ジェンダーステレオタイプ」はどのようなものかについて述べていく。

3.1 ステレオタイプとは何か

ステレオタイプとは、社会的に共有された信念、私たちが知らないうちに身に付け、それを信じているような型通りのイメージのことである。もともとステレオタイプという言葉は、活版印刷で鋳型からつくられる鉛版（ステロ版）を指している。ひとつの鋳型から同一の鉛版が数多く鋳造されるところから、知識や情報、特にマスメディアからの情報（＝鋳型）によって、その社会の人々の頭に画一的なイメージ（＝鉛版）が植え付けられる様子を例えて使われるようになった。

W. Lippman は、1922 年の彼の著書 *Public Opinion* の中で、「ステレオタイプ」という言葉を「集団のメンバーや外界の事象に対してもつ単純化された信念」の意味で用いている。また同じ書の中で彼は、「ステレオタイプはわれわれの頭の中に描かれた像（pictures in our heads）を指し、人間によって創られた擬似環境を意味する」というアイディアを提示している。「ステレオタイプ」という言葉を現代的な意味で使用したのは彼が最初であった[5]。そしてそれ以降、ステレオタイプに関する多くの定義が提出されている。例えば Basow（1992）は、「ある特定の社会的カテゴリーに属する人々についての極端な一般化」として「ステレオタイプ」を定義づけている。さまざまな定義が語られている中で最も一般的であるのは、「ある社会的集団の成員を特徴づけると信じられている属性の集まり」という定義のようだ。

私たちは多くの場合、見てから定義するのではなく定義してから物事を見る[6]。この物事を見るための定義の基盤となっているのは何なのか。それは、私たちが「こうであろう」と信じている世界像、すなわち、私たちの頭の中にある表象である。そしてこの世界像はステレオタイプで溢れており、現実の世界とはずれたものであるかもしれない。V. Turner の「私たちの社会的行動あるいは、『現実世界』の言動は、行為者の頭にあるパラダイムを通して形を取り、意味を持つ」という言葉も、このようなことを示しているのだろう。

3.2 共示としてのステレオタイプ

先に見たとおり、ステレオタイプは「ある社会的集団の成員を特徴づけると信じられている属性の集まり」と定義することができた。そしてこのステレオタイプは、言語の意味構造でいえば共示のひとつである。共示がある語に結び付けられた主観的価値であり、辞書的定義を超える単語の意味であることは、第２節で述べたとおりである。そして、ある

語を耳にしたとき、あるいは目にしたとき、その語に付随したステレオタイプが私たちの頭の中に描き出される。それは辞書には見出すことのできない意味であり、客観的でなく主観的なものである。このようなことを考えれば、ステレオタイプが共示に含まれるということに多くの説明は要さないだろう。

先にふたつの共示、「個人性の強い主観的価値」と「共有性のある主観的価値」について述べたが、ステレオタイプは「共有性のある主観的価値」に分類される。ステレオタイプは直接的な体験ではなく間接的な情報によって作り上げられるものであり、私たちの多くが共通してもつイメージであるからだ。具体例として挙げるには、「○○人」という語が適しているだろう。例えば、「フランス人」という語は「フランスという国に国籍を有するもの」と定義できる。しかし、この語には「プライドが高い、恋愛好き」といったような共示が結び付けられている。また、「ドイツ人」という語には「真面目、かたい、ビール好き」などの共示が結び付けられているだろう。このような共示は、ナショナリティに関するステレオタイプである。このようなステレオタイプは間接的な情報によって作り上げられる。特に、映画やテレビ、本などマスメディアの影響が大きいだろう。そして、実際にフランスやドイツに訪れた経験のない人や、フランス人、ドイツ人と直接会ったことのない人でも、情報をもとにこのようなステレオタイプをもち、それらの国を理解した気になってしまう。そしてそれが、頭の中の世界像を構成する要素となっていく。旅行でそこを訪れることや、実際にその国の人々と出会う機会があったとしても、よほどの時間を費やさない限りステレオタイプに沿った知覚をしてしまう。頭の中にあるパラダイムに支配されているのだ。

1999 年 2 月のタイム誌に、次のようなジョークが載っていた[7]。人々のもつステレオタイプをうまく表したジョークだといえる。タイタニック号沈没の際の話である。救命ボートの数が足りず、女性や子供をボートに乗せるために男性には海に飛び込んでもらわなければならなかった。しかし誰も自分から海に飛び込もうとはせず、船長は乗客を説得してまわることにした。船長はイギリス人に対しては「紳士らしく振舞ってください（You must act like gentlemen.）」と言った。すると、イギリス人の男性は海に飛び込んだ。アメリカ人には「あなたは今、ヒーローになるチャンスです（You can be heroes.）」と言った。するとアメリカ人の男性は直ちに海に飛び込んだ。ドイツ人には「これは規則ですから（It's the rule.）」と言うと、船長の指示に従った。残ったのは日本人である。そこで船長は日本人に対して「みんなで決めたことですから（It's the consensus.）」と言った。すると、やっと日本人の男性も海に飛び込んだという。

言うまでもなく、上記のジョークを理解するのにイギリス人、アメリカ人、ドイツ人、日本人との交流経験がある必要はない。ただ、その国や人に対する知識とイメージがあればよいのである。そしてこのジョークに納得できる人は、みな同じステレオタイプをもっているといえるだろう。テキストとしてこのジョークを読むときには「イギリス人」という文字列が、またこのジョークを耳で聞いているときには「イギリス人」という音声が、「イ

ギリス人」という語に結び付けられた共示、すなわちステレオタイプを呼び起こす。

3.3 ジェンダーステレオタイプ

第4節に先立って、ジェンダーステレオタイプの定義とその内容について触れておく。

3.3.1 「ジェンダー」という言葉

ジェンダーステレオタイプについて述べる前に、「ジェンダー」という言葉の定義を確認しておきたい。生物学的な性を表す「セックス（sex）」に対して、「ジェンダー（gender）」という言葉は社会的・文化的に構築された性のことを表す。この言葉はもともと、男性名詞や女性名詞など名詞を分類する文法用語であるが、上記の意味に転用されている。

ジェンダーは、乳幼児の頃から着せられる服や与えられる玩具、また大人たちからの期待によって形作られていく。そして、小学校高学年になると期待されるジェンダーを大人なみに身に付けるといわれる[8]。

また、1979年の国連総会で「女性差別撤廃条約（Convention on the Elimination of all Forms of Discrimination against Women）」が採択されて以来、「ジェンダー」という言葉は法律用語としても重要な役割を果たしている。

3.3.2 性別についての思い込み

私たちは、何らかのルールに従って日々の生活を送っている。年齢・性別・職業など自分の属する社会的カテゴリーに合った行動を無意識のうちにしているのだ。社会的カテゴリーに合った行動とは、ステレオタイプに沿った行動ともいえるだろう。

性別というカテゴリーに注目したとき、私たちは「女として」あるいは「男として」どのような態度を示し、どのような行動をとっているのだろうか。それは環境や周囲の期待に依拠するところが大きいだろう。「男はこうあるべきだ」、「女はこうあるべきだ」というジェンダーステレオタイプが人の行動を左右しているのである。ジェンダーステレオタイプとは、男性と女性に対して人々が共有する、構造化された[9]思い込みのことをいう。

3.3.3 どのようなジェンダーステレオタイプがあるか

ジェンダーステレオタイプの内容はどのようなものなのだろうか。色やファッション、性格、職業など様々な事柄にジェンダーステレオタイプはついてまわる。色でいえば、暖色系が女色で寒色系が男色とする傾向が見られる。女児にはピンク、男児にはブルーの服を着せる親が多いことも、この傾向を物語っている。また、パイロットや医者のような職業には男性のイメージが強く、幼稚園の先生や秘書のような職業には女性のイメージが強いというのも事実だろう。

ここからは、性格特性に関するジェンダーステレオタイプに焦点を当て、その内容を考えていく。一般的に、男性的特性のキーワードは、「道具性」、「作動性」、「行動力」、「知性」

などであると考えられ、女性的特性のキーワードは、「表出性」、「共同性」、「従順と美との融合」などであると考えられてきた[10]。

道具性、表出性とは、Parsons & Bales（1955）が家族における役割に関して出した概念である。生計維持を中心とする道具的（instrumental）役割の遂行を促進するような性格特性が道具性である。例えば、「活動的」、「厳しい」、「賢い」などが道具性のうちに入るだろう。そして、家族の世話や愛情に関与する表出的（expressive）役割の遂行を促進するような性格特性が表出性である。「愛情表現豊かである」、「やさしい」、「あたたかい」などは表出性にあたるだろう。

作動性（agency）と共同性（communion）は、Bakan（1966）が提起した概念である。作動性とは、自己主張や自己擁護、達成への促進など独立した個人としての特性を指す。具体的には、「自主的」、「自尊心が強い」、「支配的」などが挙げられる。共同性とは、他者と一緒にいるという感覚や結合、契約のない協力など大勢の中にいる個人としての特性を指す。「従順」や「依存的」、「相手の気持を察する」などはこれに該当する。

4. 形容詞とジェンダーステレオタイプ

この節では、本論文の主題である形容詞とジェンダーステレオタイプについて扱う。まずいくつかの先行研究を紹介し、その後に本研究の考察の中心が何であるかを述べる。そして私が行った形容詞とジェンダーステレオタイプに関する調査の結果を報告する。

4.1 先行研究

ジェンダーステレオタイプに関する研究は国内外で広く行われており、枚挙に暇がない。ここでは、形容詞とジェンダーステレオタイプに関する研究の中で本研究との関連が深いと思われるものをいくつか紹介する。

4.1.1 柏木 1967，1972

柏木（1967）では、男女の性に対してどのような役割特性が期待されているか、すなわち「男らしさ」、「女らしさ」とされているものは何か、また「性役割（性に応じた役割）」はどのように認知されるかを実験によって考察している。実験では身体的面や知的、性格的面など様々な領域にまたがった男性・女性の役割を記述するのにふさわしいと思われる特性を示した語 34 項目を用意し、各項目が男性にとってどの程度望ましいか、また女性にとってどの程度望ましいかを被験者に 7 段階で評価させた。被験者は中学 1 年、高校 1 年、大学 2 年の 3 年齢に分けられる。

大学生（男子 50 名、女子 50 名）に対する調査結果の一部を以下に紹介する。

順位 （差の大きさ）	男子		女子	
	m>f	m<f	m>f	m<f
1		かわいい	女性をリード	
2	理想をもった		指導力ある	
3	線が太い			気持こまやか
4	背が高い		経済力ある	
5		容貌の美しい	意志強固な	
6	指導力のある		背が高い	
7	意志強固な		積極的	
8		気持こまやか	仕事に専心する	
9		おしゃれ		かわいい
10		家庭的	政治関心ある	
11	自信ある		活発な	
12	頭がよい		女性を認める	
13	理性的		自信のある	
14	仕事に専心する			家庭的
15		従順な		容貌の美しい
16	経済力ある		理性的	
17	視野の広い			従順な
18		愛情豊かな		おしゃれな
19	積極的な		視野広い	
20		行儀よい		行儀よい
21	政治関心ある			謙虚な
22	活発な			愛情豊かな
23	学歴ある			
24	女性をリード			

（注）それぞれの特性が男性女性に対してどれだけ望まれているか、その 7 段階評価を得点に換算し、差の大きいものから順に並べている。差の見られなかった特性として「健康な」、「社交的」、「道徳的」などが挙げられる。

表 1. 柏木による性役割の認知度調査結果

この調査結果から、男性には「強さ」や「知性」などが求められ、女性には「美」や「気持のあたたかさ」が求められていることがわかる。また、男性に対しては役割特性が明瞭

であり多くの特性が付与されているのに対して、女性役割特性はより少なく、明瞭に認知されがたい傾向が明らかにされた。

柏木（1972）では、上記の役割特性を 3 つの因子に分類している。第Ⅰ因子は知性に関わるもの、第Ⅱ因子は美・従順に関わるものであり、第Ⅲ因子は行動力に関わるものである。そして、第Ⅰ因子と第Ⅲ因子は男性役割を示し、第Ⅱ因子は女性役割を示すとされている。

4.1.2 Rosenkrantz, Vogel, Bee, Broverman, and Broverman 1968

男女の性格特性に関して強いステレオタイプが存在するということは、多くの研究者が認めていることである。よく知られている研究のひとつに Rosenkrantz et al.（1968）がある。彼らは、122 の性格特性についてそれらが男性的であるか女性的であるかを調査した。その結果の一部を以下の表にまとめる。

STEREOTYPICAL SEX-ROLE ITEMS （responses from 74 college men and 80 college women）	
Competency Cluster：Masculine pole is more desirable	
Feminine	*Masculine*
Not at all aggressive（攻撃的でない）	Very aggressive（攻撃的な）
Not at all independent（独立心の弱い）	Very independent（独立心の強い）
Very emotional（感情的な）	Not at all emotional（感情的でない）
Does not hide emotions at all （感情を隠さない）	Almost always hides emotions （感情を隠す）
Very subjective（主観的な）	Very objective（客観的な）
Very easily influenced （感化されやすい）	Not at all easily influenced （感化されにくい）
Very submissive（従順な）	Very dominant（支配的な）
Dislikes math and science very much （理数を嫌う）	Likes math and science very much （理数を好む）
Very excitable in a minor crisis （些細なことを気にする）	Not at all excitable in a minor crisis （些細なことは気にしない）
Very passive（消極的な）	Very active（積極的な）
Not at all competitive（競争好きでない）	Very competitive（競争好きな）
Very illogical（非論理的な）	Very logical（論理的な）

Warmth-Expressive Cluster : Feminine pole is more desirable	
Feminine	*Masculine*
Doesn't use harsh language at all（きつい言葉を使わない）	Uses very harsh language（きつい言葉を使う）
Very talkative（おしゃべりな）	Not at all talkative（おしゃべりでない）
Very tactful（如才ない）	Very blunt（鈍い）
Very gentle（やさしい）	Very rough（粗雑な）
Very aware of feelings of others（他者の気持を察する）	Not at all aware of feelings of others（他者の気持を察しない）
Very neat in habits（こぎれいな）	Very sloppy in habits（だらしのない）
Very interested in own appearance（自分の外見を気にする）	Not at all interested in own appearance（自分の外見を気にしない）
Enjoys art and literature（芸術や文学を楽しむ）	Does not enjoy art and literature（芸術や文学を楽しまない）
Easily expresses tender feelings（愛情表現が豊かである）	Does not express tender feelings at all easily（愛情表現をあまりしない）

（注）カッコ内の訳は筆者による。

表 2. Rosenkrantz らによって収集されたジェンダーステレオタイプ

彼らは 122 の性格特性を 2 つのクラスターに分類している。ひとつは Competency Cluster で、男性により典型的だと思われる性格特性をまとめたものである。これには、3.3.3 で紹介した「道具性」や目的達成行動を支える競争性、論理性、ビジネススキルや自信などが関係している。もうひとつのクラスターは Warmth-Expressive Cluster で、女性により典型的だと思われる性格特性をまとめたものである。これには、3.3.3 で紹介した「表出性」や子育てを支えるやさしさ、感情表現の豊かさや他者への思いやりなどが関係している。

また、男性に対するステレオタイプの方が女性に対するステレオタイプより社会的に望ましいものとなることが多いという指摘もされている。例えば、「論理的である」ということは望ましいが「非論理的である」ということは望ましくない。そして「論理的である」という特性は男性により典型的であると認知され、「非論理的である」という特性は女性により典型的であると認知されているという具合である。

4.1.3 伊藤 1978, 1997

伊藤（1978）では、性役割に関して M-H-F Scale の作成を試みている。まず、男性 84 名、女性 127 名から男性役割、女性役割に関する反応語を求め、それらのうちから出現頻

度の多いこと、用語が適切であることなどを基準に男性役割 55 語、女性役割 55 語のチェックリストを作成する。そして、そのチェックリストをもとに「ある性質が男性・女性にとってどの程度重要だと思うか」という質問に対して男性 40 名、女性 40 名の被験者が 7 段階評価を行う。その結果から因子分析を行い、男性役割概念の中には Masculinity と Humanity が含まれ、女性役割概念の中には Femininity と Humanity が含まれるという結果を出している。Humanity という男性と女性に共通する概念を導入することによって、男性と女性をより包括的に記述することを可能としている。そして各要素に 10 項目ずつ、計 30 項目からなる M-H-F Scale を作成した。

Masculinity	Humanity	Femininity
1.冒険心に富んだ	11.忍耐強い	21.かわいい
2.たくましい	12.心の広い	22.優雅な
3.大胆な	13.頭の良い	23.色気のある
4.指導力のある	14.明るい	24.献身的な
5.信念を持った	15.暖かい	25.愛嬌のある
6.頼りがいのある	16.誠実な	26.言葉使いのていねいな
7.行動力のある	17.健康な	27.繊細な
8.自己主張のできる	18.率直な	28.従順な
9.意志の強い	19.自分の生き方ある	29.静かな
10.決断力のある	20.視野の広い	30.おしゃれな

表 3. 伊藤の M-H-F Scale

伊藤（1978）の研究の主は M-H-F Scale の作成にあるのではなく、Scale を使用して個人・社会・男性・女性の 4 つの次元における性役割評価の違いを考察することにある。調査内容は、M-H-F Scale を用いて 4 種の質問により性役割を評価させるというものである。質問はそれぞれ、「あなたにとって次のような性質はどの程度重要だと思いますか（個人的評価）」、「社会一般では次のような性質はどの程度重要だとされていますか（社会的評価）」、「女性（男性）にとって次のような性質を備えることはどの程度重要であると思いますか（異性に対する役割期待）」、「一般に世間の人々から男性（女性）として望ましいと思われるには次のような性質を備えることがどの程度重要になってくると思いますか」というものである。その結果、個人的評価においても社会的評価においても、女性役割に比べて男性役割の「優位性」が確認された。しかし、どちらの評価次元においても Humanity に最も高い価値が付与されている。また、異性に対する役割期待では興味深い結果が出ている。それは、女性から見た男性役割期待は社会的望ましさと一致する一方で、男性から見た女性役割期待は社会的望ましさと一致しないというものである。これは、Rosenkrantz et al.

（1968）でも指摘されている。

伊藤（1997）では、性差観スケールというものを作成し、人がジェンダーに関する様々な事柄や状況をどのように認知するか、物事をどの程度性別に関連づけて認知し評価するかを測定している。以下に、性差観スケールを紹介する。このスケールは、男女について一般に言われている「女は～である」、「男性は女性にくらべ～」といった表現が使われる事柄や状況で「能力」、「性格」、「外見」、「身体・生理」と「行動様式」に関する30項目よりなる。

No.	項目
1.	最終的に頼りになるのは、やはり男性である
2.	体力において男性がまさる以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのは、やむをえない
3.	家庭のこまごまとした管理は、女性でなくては、と思う
4.	女性は、体力や精神力の点でパイロットなど人命をあずかる仕事には向いていない
5.	女性は出産する可能性があるため、男性と仕事の上で互角に並ぶのは無理である
6.	人前では、妻は夫を立てた方がよい
7.	女性は視野がせまい
8.	中学になると、男の子の成績の方が伸びる
9.	女性は男性にくらべ、感情的である
10.	子育ては、やはり母親でなくては、と思う
11.	論理的思考は、男性の方がすぐれている
12.	セックスにおいて男性がリードするのは当然である
13.	冒険心やロマンは、男性の究極のよりどころである
14.	女性は何かにつけて責任を回避しがちである
15.	女性のすぐれた思想家は、あまり出ない
16.	一家の生計を支えらないような経済力のない男性は、男として失格である
17.	男性は女性にくらべ、人を使うのが上手である
18.	子どものことより自分のことを優先して考えるような女性は、母親になるべきではない
19.	男はむやみに弱音を吐くものではない
20.	女が人前でタバコを吸うのは好ましくない
21.	女性は男性にくらべ、臆病だ
22.	男性は女性にくらべ、攻撃的である
23.	女性が入れたお茶は、やはりおいしい
24.	子どもを他人に預けてまで、母親が働くことはない
25.	たくましい精悍な体つきは、男の魅力として重要である
26.	女性は月経があるので、精神的に不安定である

27. 女性は男性にくらべ、手先が器用である
28. 男性と女性は本質的に違う
29. 男性の性欲は、概して女性にくらべて強い
30. 男は背が高くなければ、と思う

表 4. 伊藤の性差観スケール

評定は「そう思う」、「どちらかというとそう思う」、「どちらかというとそう思わない」、「そう思わない」の 4 件法で、それぞれ 4〜1 点を与え、全 30 項目の合計得点を出す。得点が高いほど、その人のもつジェンダーステレオタイプが強いということになる。

4.1.4 Williams & Best 1982

Williams と Best は、300 個の形容詞チェックリストを用いて、複数国の男女大学生に対し、どの形容詞が男性または女性を連想させるかを評定させた。この研究結果の一部を表 5 に示す。

Male-Associated	*Female-Associated*
Active（活動的な）	Affectionate（愛情のある）
Adventurous（冒険好きな）	Charming（愛らしい）
Confident（自信のある）	Curious（好奇心旺盛な）
Daring（大胆な）	Dependent（依存的な）
Enterprising（進取の気性に富む）	Emotional（感情的な）
Humorous（ユーモアのある）	Gentle（やさしい）
Independent（独立した）	Mild（おだやかな）
Individualistic（個人主義の）	Modest（控えめな）
Rational（理性的な）	Nervous（臆病な）
Robust（粗野な）	Sensitive（敏感な）
Stern（頑固な）	Submissive（従順な）
Tough（気の強い）	Talkative（おしゃべりな）
Witty（機知のある）	Warm（あたたかい）

（注）カッコ内の訳は筆者による。

表 5. Williams & Best によって収集されたジェンダーステレオタイプ

彼らは、ジェンダーステレオタイプが国の違いを超えて存在することを示した。また、ここでも男性に対するステレオタイプの方が女性に対するステレオタイプに比べてより肯

定的な意味合いをもつことが指摘されている。男性に対するステレオタイプはより「積極性・活発さ」や「強さ」を含んでいるとも示されており、これらの特性もまた社会的望ましさが高いと考えられる。

4.2 形容詞とジェンダーステレオタイプに関する調査

本論文の前半で、ある語の意味構造は外示（辞書的定義）と共示（辞書的定義を超える意味）から成ること、共示には個人性の強い主観的価値と共有性のある主観的価値があることを述べた。そして、共示としてのステレオタイプの存在を示し、ステレオタイプ、とりわけジェンダーステレオタイプにはどのようなものがあるかを概観した。

これを踏まえて本節では、性格特性を表す形容詞とジェンダーステレオタイプに関して私が行った調査について述べていく。

4.2.1 調査目的

調査を行うにあたって私が立てた問いは、「辞書的には類義語とされるような2つの形容詞があるとき、それらが人に想起させるジェンダーステレオタイプは一致するのだろうか」という問いである。外示が一致していても共示が異なるという例は既に多数発見されている[11]が、形容詞とジェンダーステレオタイプの場合はどのような関係になっているのか。単語の共示（辞書的定義を超える意味）としてのジェンダーステレオタイプに注目し、この問いの答えを探りたい。

4.2.2 調査方法

辞書的定義が類似している2つの形容詞を1組とし、一方をA群、一方をB群とする[12]。形容詞はA群・B群それぞれ10項目ずつ計20項目用意する。これらは、4.1で紹介した先行研究を参考に選定した。使用した形容詞を表6に示す。

	A群	B群
1.	頑固な	意地っ張りな
2.	従順な	素直な
3.	粗雑な	無作法な
4.	好奇心旺盛な	詮索好きな
5.	あどけない	無邪気な
6.	おだやかな	おとなしい
7.	活動的な	元気な
8.	如才ない	気の利く
9.	大胆不敵な	向こう見ずな

10.	控えめな	慎み深い

表 6. 調査に使用した形容詞 20 項目

表 6 に示した形容詞を使って、その単語を含む短い人物紹介の文を作成した。テキストや会話の中で私たちが形容詞に触れる場合、それは単独ではなく文の一部として現れる。ソシュールの用語でいう「パロール」[13]における形容詞とジェンダーステレオタイプの関係を探るため、今回敢えて文を作成することにした。実際の文は以下のとおりである。

	A 群	B 群
1.	自分の考えを押し通す頑固な性格である。	自分の考えを押し通す意地っ張りな性格である。
2.	兄と姉を持つ末っ子で従順な性格である。	兄と姉を持つ末っ子で素直な性格である。
3.	粗雑なふるまいをしている。	無作法なふるまいをしている。
4.	好奇心旺盛で、情報収集に事欠かない。	詮索好きで、情報収集に事欠かない。
5.	あどけない表情をしていて、人に好感を持たれる。	無邪気な表情をしていて、人に好感を持たれる。
6.	おだやかな人柄が話し方にも表れている。	おとなしい人柄が話し方にも表れている。
7.	いつも活動的でパーティーにはよく参加する。	いつも元気でパーティーにはよく参加する。
8.	如才ない人で、挨拶を忘れない。	気の利く人で、挨拶を忘れない。
9.	大胆不敵な行動で、しばしば人を驚かせる。	向こう見ずな行動で、しばしば人を驚かせる。
10.	控えめな性格で、パーティーにはあまり出ない。	慎み深い性格で、パーティーにはあまり出ない。

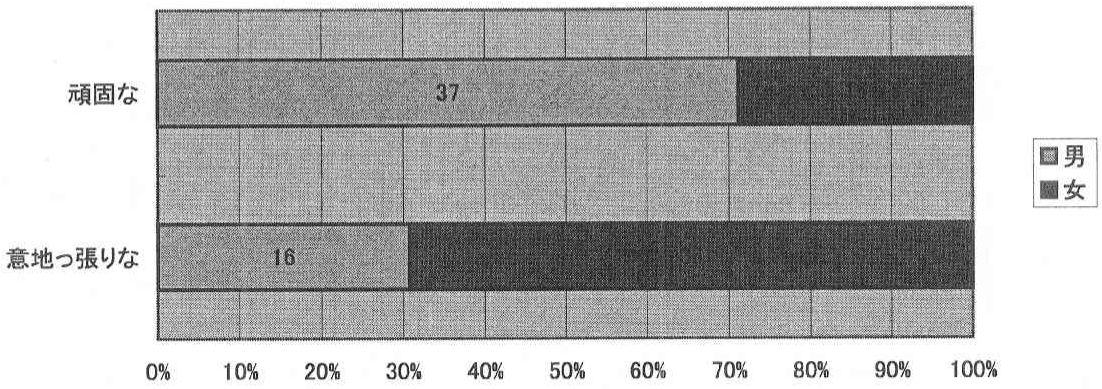
（注）パーティーの参加者という設定になっている。

表 7. 調査に使用した人物紹介文

そして被験者 104 名（男性 40 名、女性 64 名）を A グループと B グループそれぞれ 52 名（男性 20 名、女性 32 名）に分け、A グループの被験者には A 群の 10 項目について、B グループの被験者には B 群の 10 項目について、人物紹介の文を読んでその人物の性別と年齢の判定をするよう求めた[14]。調査用紙を使用する方法とインターネット上の CGI を使用する方法の 2 種類でデータを収集した[15]。

4.2.3 調査結果

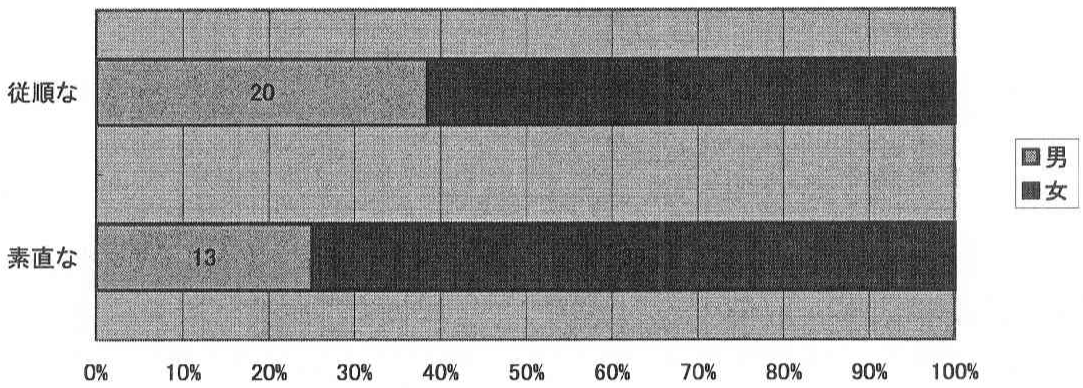
形容詞 20 項目についてジェンダーステレオタイプがどのように測定されたか、その結果をグラフに示す。グラフは、それぞれの形容詞が男性女性どちらのジェンダーステレオタイプをもっていると判断されたかをパーセンテージで示したものである。またグラフ中の数字は実際の値（人数）を表している。



グラフ 1. 「頑固な」と「意地っ張りな」の比較

まず、「頑固な」と「意地っ張りな」についてである。「頑固」という語の意味は「かたくなで意地っ張りなこと。」と辞書に明記されており、この 2 つの形容詞の外示は類似している。英語では"stern"や"stubborn"などが同じ意味に当たる [16] が、このような特性は男性ステレオタイプをもつとされている。

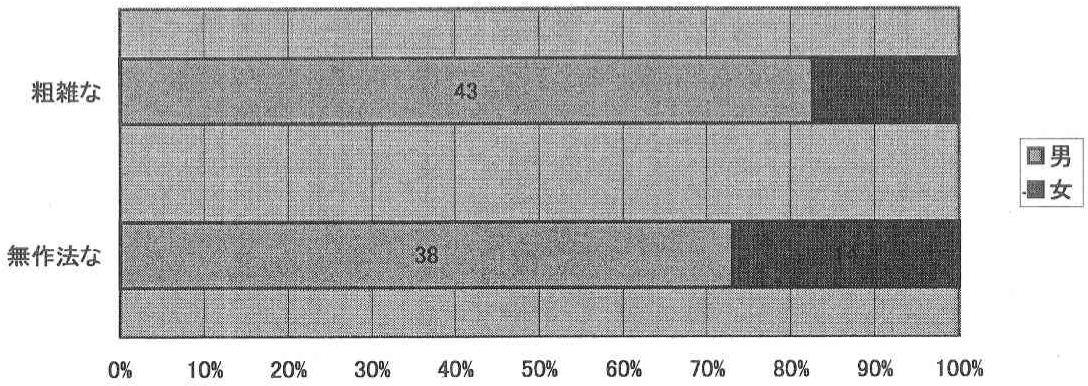
グラフ 1 を見ると、「頑固な」という語は男性ステレオタイプをもつと測定されたのに対して「意地っ張りな」という語は女性ステレオタイプをもつと測定されたことがわかる。語からイメージされる性別が、2 つの語でちょうど逆転したようなかたちになっている。



グラフ 2. 「従順な」と「素直な」の比較

次に、「従順な」と「素直な」について見ていく。「従順」という語の辞書的定義は「素直で人に逆らわないこと。」となっており、また「素直」という語の辞書的定義は「おだやかで人に逆らわないこと。従順。」となっている。これらの語は女性ステレオタイプをもつとされている。

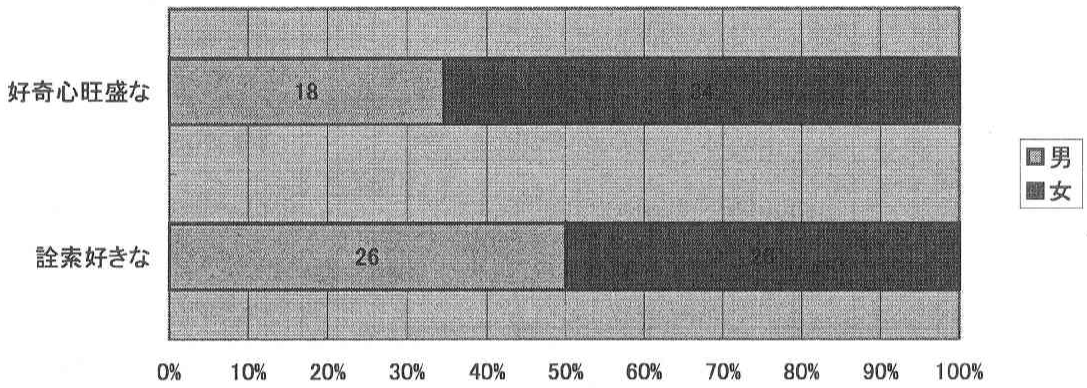
今回の調査でも「従順な」と「素直な」はともに女性ステレオタイプをもつ語として認知されていることがわかった。2語を比べると「素直な」の方がより強い女性ステレオタイプをもっていることがグラフ2から読み取れる。



グラフ3. 「粗雑な」と「無作法な」の比較

「粗雑」、「無作法」、「ぶしつけ」、「ぞんざい」などの語は類似した外示をもつといえる。このような特性は男性ステレオタイプが強いとされており、英語では"robust"や"rude"などがある。

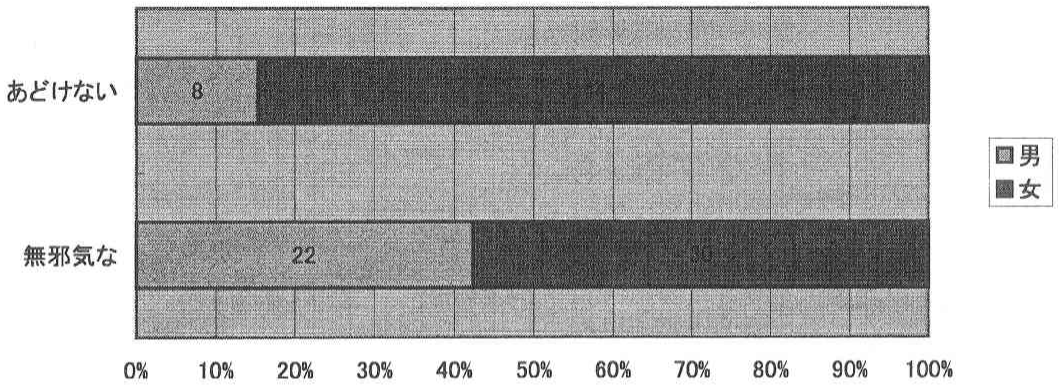
グラフ3を見ると、「粗雑な」と「無作法な」はともに強い男性ステレオタイプをもっていることがわかる。「粗雑な」では約83%、「無作法な」では約73%の被験者が男性的イメージをもっており、ジェンダーステレオタイプの違いは小さいといえる。



グラフ 4. 「好奇心旺盛な」と「詮索好きな」の比較

次は、「好奇心旺盛な」と「詮索好きな」の 2 語である。英和辞典[17]では、これらはともに"curious"の訳語として扱われている。そして"curious"のような特性は、女性により典型的であるとされている。

今回の調査では「好奇心旺盛な」は女性ステレオタイプをもつと測定されたが、「詮索好きな」は 26 名が男性的イメージ、26 名が女性的イメージをもちちょうど半々に分かれるという結果になった。「詮索好きな」という語は「好奇心旺盛な」に比べてややネガティブな意味を伴う。男性ステレオタイプをもつ形容詞は肯定的意味合いをもつものが多く女性ステレオタイプをもつ形容詞は否定的意味合いをもつものが多いということが先行研究で指摘されているが、今回それとは逆の結果になっていることが興味深い。

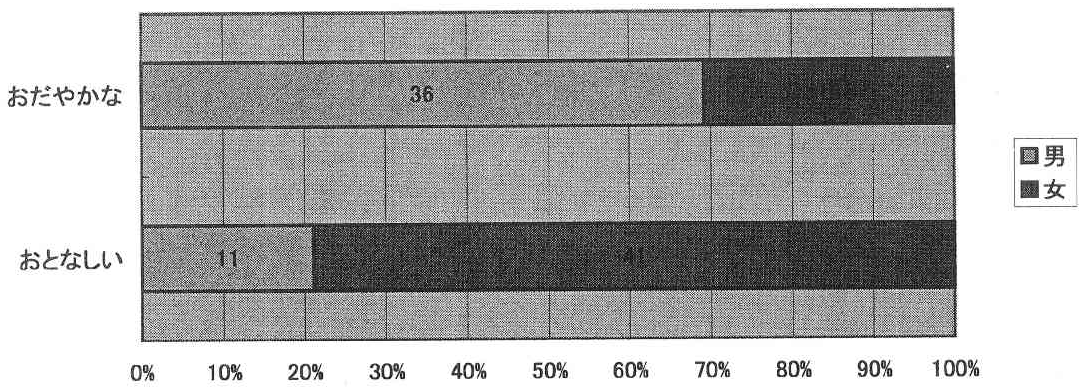


グラフ 5. 「あどけない」と「無邪気な」の比較

「あどけない」の辞書的定義は「無邪気である。邪心がなくかわいらしい。」であり、「あどけない」と「無邪気な」は類義語である。これらは女性的イメージをもつ語である。こ

れらの語は、指し示すことのできる対象の年齢にも違いがあると考えられるが、今回は性別のみに注目することとする。

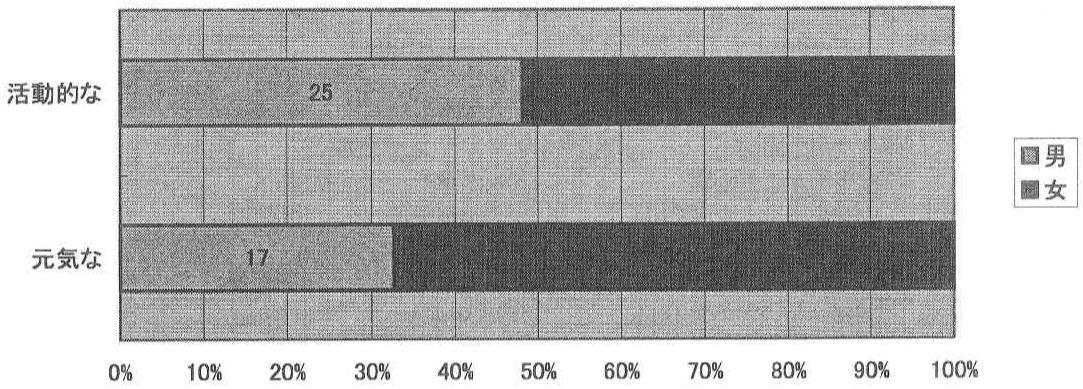
調査の結果、どちらの語も女性ステレオタイプをもつとされたが、グラフ 5 を見るとその強さの違いがわかる。「あどけない」に対して約 85％の被験者が女性的イメージをもったことから、この語のもつ女性ステレオタイプは強いといえる。一方「無邪気な」に対して女性的イメージをもった被験者は約 58％に留まり、この語のもつ女性ステレオタイプは弱いということがわかる。



グラフ 6. 「おだやかな」と「おとなしい」の比較

「おだやかな」や「おとなしい」といった語は英語”mild”や”quiet”に当たる意味をもつ。このような特性は女性に典型的なものとされている。

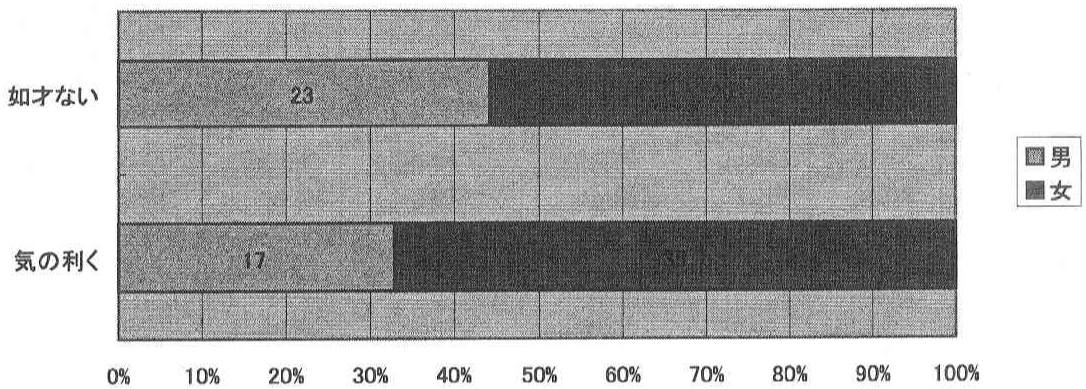
グラフ 6 を見ると、「おだやかな」では男性ステレオタイプが強く、「おとなしい」では女性ステレオタイプが強くなっていることがわかる。外示が類似していても共示としてのジェンダーステレオタイプは全く異なっている。提示文に「話し方」という情報を入れたため、「おだやかな話し方」から男性というイメージが連想されたという可能性も考えられる。



グラフ 7. 「活動的な」と「元気な」の比較

次に「活動的な」と「元気な」の 2 語を比較する。英和辞典では、この 2 つの語はともに"active"の訳語として扱われている。「元気」の定義が「活動の源となる力。」であることからも、「活動的な」と「元気な」は類義語であるといえる。このような語は男性ステレオタイプをもつということが先行研究で示されている。

今回の調査では、「活動的な」に対しては 25 名が男性的イメージを、27 名が女性的イメージをもっており、この語がどちらのステレオタイプをもつかは決め難い結果となった。「元気な」に関しては、約 67%の被験者が女性的イメージをもっており、やや弱めの女性ステレオタイプをもつ語であるといえる。今回参考にしている先行研究は 5 年以上前のものである。「活動的な」と「元気な」の 2 語ともに男性ステレオタイプをもつと測定されなかったのは、世相の反映なのではないだろうか。

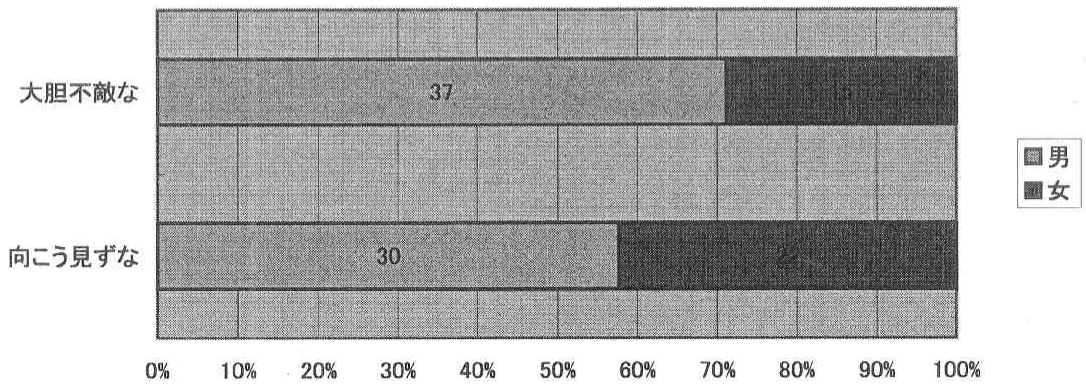


グラフ 8. 「如才ない」と「気の利く」の比較

「如才ない」の辞書での定義は「気がきく。てぬかりがない。あいそがいい。」となって

いる。このような意味を表す英単語には"tactful"などがある。これらは女性ステレオタイプをもつ語であるとされている。

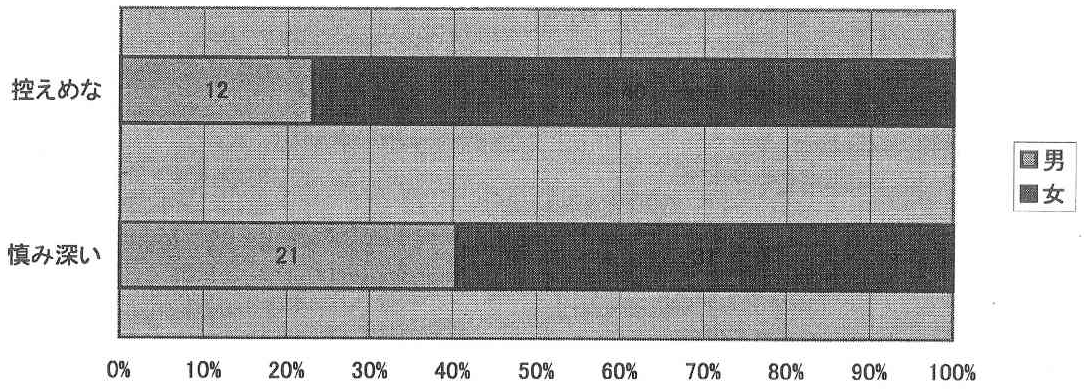
「如才ない」に対しては約 56%の被験者が女性的イメージをもっている。この語は弱い女性ステレオタイプをもつといえる。「気の利く」に対しては約 67%の被験者が女性的イメージをもっており、この語は「如才ない」よりも強い女性ステレオタイプをもつということがいえる。



グラフ 9. 「大胆不敵な」と「向こう見ずな」の比較

英和辞典によると「大胆不敵な」と「向こう見ずな」はともに英語の"daring"に当たる単語であり、「向こう見ずな」の方が悪い意味に使われることが多い。これらは、男性ステレオタイプをもつとされている語である。

グラフ 9 から、「大胆不敵な」も「向こう見ずな」もともに男性ステレオタイプをもつということが読み取れる。2 語を比べると、「大胆不敵な」の方がより強い男性ステレオタイプをもち、「向こう見ずな」に対しては約 42%の被験者が女性的イメージをもっている。2 語を比較する限りでは「向こう見ずな」の方が女性的イメージをもつ被験者が多くなっており、「ネガティブな意味合いの語は男性ステレオタイプより女性ステレオタイプをもつことが多い」という説に当てはまる結果となっている。



グラフ 10. 「控えめな」と「慎み深い」の比較

最後は、「控えめな」と「慎み深い」の比較である。これらは両方とも"modest"の意味で英和辞典に載っている。「慎み深い」は「差し出がましいところがなく、控え目である。」と定義される。このような特性は女性的であるとされる。

グラフ 10 からもわかるように、「控えめな」と「慎み深い」はともに女性ステレオタイプをもつ語と測定された。2 語のジェンダーステレオタイプの強さを比較すると、「控えめな」の方がより強い女性ステレオタイプをもっている。「慎み深い」では約 41%の被験者が男性をイメージしており、「僧侶のイメージがある」という意見が多かった。私自身もこのイメージをもっている。形容詞に特定の職業イメージが結び付き、その職業イメージからジェンダーステレオタイプが判断されるというこのような例は、さらに掘り下げていきたい事例である。

4.2.4 考察

10 組計 20 の形容詞について 1 組ずつ調査結果を見てきたが、「辞書的には類義語とされるような 2 つの形容詞があるとき、それらが人に想起させるジェンダーステレオタイプは一致するのだろうか」という問いに対する私の答えは、「辞書的には類義語とされるような 2 つの形容詞があるとき、それらが人に想起させるジェンダーステレオタイプは一致せず、ぶれが生じる」というものである。

それぞれの語に対して被験者の何%が男性ステレオタイプを感じたか、2 語間での差を「ぶれ」であるとすると、ぶれが 5%未満であった例はなく、ぶれが 10%未満であったのは「粗雑な」と「無作法な」の 1 組のみであった。また、1 組目の「頑固な」と「意地っ張りな」、そして 6 組目の「おだやかな」と「おとなしい」に関してはジェンダーステレオタイプが逆転するという興味深い結果が得られた。

外示が類似していても共示としてのジェンダーステレオタイプにぶれが生じるということは、小説中の人物描写などの際にどの語を使用するかによって読者に与えるイメージが

異なってくるということである。特に翻訳をする場合、自ら文章を作成するときと違って、そのぶれが目立ってくるのではないだろうか。例えば"stern"という語を「頑固な」と訳すとより男性的イメージが強調され、「意地っ張りな」と訳せばより女性的イメージが強調される。次節では、このような翻訳における語の選択について考える。

5. 翻訳における語の選択

前節で見たように、「辞書的には類義語とされるような2つの形容詞があるとき、それらが人に想起させるジェンダーステレオタイプは一致せず、ぶれが生じる」ということが調査によってわかった。例えば英和辞典で"modest"という語を調べてみると「控えめな」、「謙遜した」、「慎み深い」などの意味が並べてあるが、これらを並列的に扱えるのは外示について考えるときであり、どの語を選ぶかによって共示に違いが出てくる。

G.Mounin（1980：176）は、「共示は、どこに分類されようとどう名づけられようと、言語の一部をなし、外示と同じく＜翻訳しなければならない＞ものだ」と断言している。本節では、訳語の選択によってどのような共示の違いが生まれるのか、具体例を分析し、翻訳における語の選択の重要性と難しさについて考えていく。

5.1 "Babylon Revisited"に見る訳語選択

F.S.Fitzgerald の小説 "Babylon Revisited" とその3つの翻訳作品（訳者は野崎孝・沼澤洽治・村上春樹）を言語資料として、訳語の違いひとつによってどのような共示の違いが出てくるのかを探る。注目するのは、本研究で扱っている人間の性質を表す語である。形容詞に加えて名詞も取り上げる。

(1) "I don't understand it, such a dandy fellow……" [p.206]

a.「どういうんでしょうねえ、あんなにおしゃれな方なのに。…」[野崎 p.243]

b.「分からないもんですね、あんなご立派なお人が。…」[沼澤 p.183]

c.「わからないものでございますよ。あんなに粋な方でしたのにね。」[村上 p.160]

(1)の"dandy"という語は主に男性に対して使われる語である。(1a)の「おしゃれな」は女性ステレオタイプをもつ語であることが先行研究で明らかにされているため、この場合うまく共示を翻訳しているとはいえない。(1b)の「ご立派な」は男性ステレオタイプをもつ語であるといえるが、"dandy"の訳語としては物足りない感もある。(1c)では「粋な」という語が使われている。インターネットの Google 検索[18]で「粋な男」というキーワードを入力してみたところ検索結果は 1140 件であった。「粋な女」というキーワードでは検索結果は 322 件であり、「粋な」という語はより男性的イメージをもつ語であるといえるだろう。この語が最もうまく外示と共示の両方を表しているのではないだろうか。

(2) She was a tall woman with worried eyes, who had once possessed a fresh American loveliness. [p.207]

a.目つきにも心配性な感じが漂う背の高い女だが、かつてはアメリカ娘らしい溌剌とした美しさを持っていた。[野崎 p.246]

b.目が心配げな長身の女で、昔はアメリカ娘らしい生き生きした美貌の持ち主だった。[沼澤 p.186]

c.彼女は背の高い女で、目には気苦労の色が浮かんでいた。彼女にしたところでかつてはアメリカ人らしい生き生きとした愛らしさに輝いていたのだ。[村上 p.164]

(2)でまず注目したいのは"worried"の訳である。(2a)の「心配性な」、(2b)の「心配げな」という語は、"nervous"などの意味合いをも連想させる。(2c)の「気苦労」に比べてより女性的なイメージをもつ語が選択されているといえる。また、"a fresh American loveliness"という部分で(2a)の「溌剌とした」や(2c)の「愛らしさ」といった語は「若い女性」という共示をより強く含んでいる。

(3) As always, he felt Lorraine's passionate, provocative attraction, ...[p.211]

a.彼はロレーンの相変らず情熱的で挑発的な美しさに惹かれないわけではなかったが、…[野崎 p.254]

b.ロレーンの熱っぽく人を挑発する魅力は昔ながらに感じぬわけではないが、…[沼澤 p.194]

c.彼はロレーンの放つ熱情的で挑発的な魅力を感じてはいた。[村上 p.173]

上記(3)では"passionate"と"provocative"の 2 つの形容詞が使われている。まず"passionate"に関しては、(3a)の「情熱的」、(3b)の「熱っぽく」、(3c)の「熱情的」を比較すると(3a)は他の 2 つよりも女性ステレオタイプが弱いと感じられる。「熱っぽく」や「熱情的」の方がより女性の性的魅力をイメージさせるからである。この部分の翻訳では、より女性的な共示を残すことが求められるのではないだろうか。"provocative"の訳では 3 例ともに「挑発」という語を選択している。また"attraction"という語の訳で(3a)のみが「美しさ」という語を使用している。「美」は女性的特性のキーワードであることからも、「魅力」という語に比べて「美しさ」という語は、より女性的であるといえる。

(4) Charlie sat in a gloomy agency and talked to a cross Bearnaise and to a buxom Breton peasant, ...[p.218]

a.チャーリーは、陰鬱な周旋所に坐って、無愛想なベアルン出身の女とはちきれそうに太ったブルターニュの田舎娘に面接したが、… [野崎 p.269]

b.陰気な紹介所に腰を下ろし、ふくれっ面のベアルン女と丸々太った田舎臭いブルター

ニュ女に面接してみたが、… [沼澤 p.210]

c.チャーリーは陰気な斡旋所の椅子に座って、意地の悪そうなベアルヌ女と、豊満なブルターニュの百姓女と話をした。[村上 p.190]

(4b)の「ふくれっ面の」という語は"cross"の訳語であるが、「ふくれっ面の」は成人男性に対してあまり使われない言葉である。その対象は女性か子供になることから、(4a)の「無愛想な」や(4c)の「意地の悪そうな」に比べると女性ステレオタイプを含んでいるのではないだろうか。また、"buxom"という語は女性に対して使う語であるため女性ステレオタイプをもっているといえる。(4c)の「豊満な」も女性ステレオタイプをもつ語であり、共示としてのステレオタイプをうまく訳している。(4a)の「はちきれそうに太った」も(4b)の「丸々太った」に比べると、やや女性的な意味合いをもつ語であるといえる。

5.2 訳語選択の重要性

「共示も外示と同じように翻訳しなければならない」といっても、原文で使われている語の共示を正確に理解し、その共示を持ち合わせた訳語を選択することは困難なことである。すべての語に対してそのようなこだわりをもつことは不可能に近いと考えられるし、またそこまでの必要もないのではないかと思う。しかし、今回取り上げた人間の性質を表す語は、それによって登場人物の像が描かれるなど重要な役割を果たしていることが多い。このような語に関しては、やはり共示までをも翻訳し原典の意味世界を再現することが重要になってくるのではないだろうか。

5.1 で扱った例の中でいくつか、共示の翻訳に成功していると思われるものがあった。翻訳者がジェンダーステレオタイプなどの共示を意識してその訳語を選択したのかどうかはわからないが、具体例を分析してみると語の選択によって生まれる共示の違いは明らかである。ジェンダーステレオタイプに限らず、共示に注目して翻訳作品とその原典を比較してみることは、新しい視点を得て、新しい発見をすることにつながるだろう。

6. おわりに

「ひとつの単語が人に何を想起させるか」、語の共示的意味は、明確に指し示せないものである。個人性の強い主観的価値は人によっていくらでも違いの出てくるものであるが、共有性のある主観的価値に関してもその意味の揺れは大きい。

今回、ジェンダーステレオタイプと形容詞について調査を行った。ジェンダーステレオタイプは男性的か女性的かという 2 つの選択であるため、その測定がしやすい。外示が類似している類義語間でも共示としてのジェンダーステレオタイプには大きな違いがあるということが調査によってわかったが、その違いの大きさは予想以上のものであった。項目数や被験者数を増やした大規模な調査をすることによってますます体系的な研究になるの

ではないだろうか。また、日本語以外の言語でこのような類義語間のジェンダーステレオタイプ比較をするということも考えられ、様々な発展性が見えてきている。女性ステレオタイプをもつとされている英単語の訳語 2 つを比較して、一方は男性ステレオタイプが強く一方は女性ステレオタイプが強い、というような結果は非常に興味深く、翻訳において語の選択がいかに重要であるかということを実感させられた。

第 5 節では具体例を分析しながら共示の翻訳について述べたが、形容詞とジェンダーステレオタイプに関する調査の結果を踏まえて視点を絞って翻訳分析をできたことには意義深さを感じている。

形容詞とジェンダーステレオタイプというテーマは言語学的な側面と社会心理学的な側面との両方に面白みを見出すことのできるテーマであった。言語学的な面白さは、外示が類似していても共示が異なることや翻訳における訳語選択の際にもジェンダーステレオタイプが付随してくるといった点にあり、社会心理学的な面白さは、どのような語にどのようなジェンダーステレオタイプが付随しているか、社会的に望まれている「男らしさ」や「女らしさ」はどういうものなのかなどをデータとして目にできるといった点にある。このようなテーマは日常のすぐ近くにあり、また決まった答えのない、考えがいのあるテーマであると改めて認識した。

【註】

1 本論文において「形容詞」という語は品詞分類に従った呼び名ではなく、人を形容する語の呼び名として使用する。

2 「外示」と「共示」という概念は言語学で広く扱われてきたものである。しかし必ずしも「外示」と「共示」という用語が使われているわけではなく、「指向的意義」と「情動的意義」や「指向的記号」と「喚起的記号」など様々な用語で「外示」と「共示」の概念が表されている。

3 ジョルジュ・ムーナン『翻訳の理論』p.156 参照。

4 ここでいう「共有性」とはもちろんすべての人が共有するという意味ではない。共有性の範囲はあるグループに限定されるものであり、その範囲は語によって異なる。

5 Richard A. Lippa *Introduction to Social Psychology* p.307 参照。

6 Lippmann, Walter. *Public Opinion* pp. 53-62 参照。

7 Timeasia.com02/15/99
（http://www.time.com/time/asia/asia/magazine/1999/990215/davos1.html）参照。

8 久能徹・松本桂樹監修『心理学入門』pp.122-123 参照。

9 「構造化」には二重の意味がある。ひとつは、ジェンダーステレオタイプがその場かぎりのものではなく頭の中で構造化され長期に渡って信じ込まれるものであるという意味である。そしてもうひとつは、ジェンダーステレオタイプと社会構造が相互に関係し合い、思い込みが再生産されていくという意味である。

10 青野篤子他『ジェンダーの心理学』p.28 参照。

11 よく知られたものに英語の"fiddle"と"violin"の例がある。これらは同じ楽器のことを指しており外示は同じである。しかし共示が異なり、"fiddle"はスクエアダンスを、"violin"はオーケストラを思い起こさせる。

12 辞書的定義が類似しているという判断は岩波書店『広辞苑第五版』における定義に基づ

いて行った。

[13] ソシュールによるとラングはランガージュ（言語能力）の行使に必要な社会的コードであり、パロールはラングによって実現する個人の発話行為である。詳しくは丸山圭三郎『ソシュールの思想』pp.79-92 参照。

[14] 性別のみの判定を求めると被験者が時間をかけて考えすぎる恐れがあるため、ダミーとして年齢の判定も求めた。今回の論文では年齢についての分析・考察は行わない。

[15] 実際に使用したものの縮小版は付録を参照。

[16] "stern"と「頑固な」は等価なのかということに対して疑問が残らないわけではないが、先行研究では２語が対応関係にあるものとして扱われている。これ以降の英日形容詞の対応についても同じである。

[17] 大修館書店『ジーニアス英和辞典』による。以降、「英和辞典」と言った場合はこれを指す。

[18] よく知られるロボット型検索エンジン（ http://www.google.co.jp）。

【付録：アンケート用紙】

アンケートA	アンケートB
パーティーの出席者10人（Aさん～Jさん）がいます。 それぞれの人に関する簡単な説明から、その人物の年齢・性別を想像して下さい。 A：自分の考えを押し通す頑固な性格である。 年齢（　）　性別（　） B：兄と姉を持つ末っ子で従順な性格である。 年齢（　）　性別（　） C：粗雑なふるまいをしている。 年齢（　）　性別（　） D：好奇心旺盛で、情報収集に事欠かない。 年齢（　）　性別（　） E：あどけない表情をしていて、人に好感を持たれる。 年齢（　）　性別（　） F：おだやかな人柄が話し方にも表れている。 年齢（　）　性別（　） G：いつも活動的でパーティーにはよく参加する。 年齢（　）　性別（　） H：如才ない人で、挨拶を忘れない。 年齢（　）　性別（　） I：大胆不敵な行動で、しばしば人を驚かせる。 年齢（　）　性別（　） J：控えめな性格で、パーティーにはあまり出ない。 年齢（　）　性別（　） ご協力ありがとうございました。	パーティーの出席者10人（Aさん～Jさん）がいます。 それぞれの人に関する簡単な説明から、その人物の年齢・性別を想像して下さい。 A：自分の考えを押し通す意地っ張りな性格である。 年齢（　）　性別（　） B：兄と姉を持つ末っ子で素直な性格である。 年齢（　）　性別（　） C：無作法なふるまいをしている。 年齢（　）　性別（　） D：詮索好きで、情報収集に事欠かない。 年齢（　）　性別（　） E：無邪気な表情をしていて、人に好感を持たれる。 年齢（　）　性別（　） F：おとなしい人柄が話し方にも表れている。 年齢（　）　性別（　） G：いつも元気でパーティーにはよく参加する。 年齢（　）　性別（　） H：気の利く人で、挨拶を忘れない。 年齢（　）　性別（　） I：向こう見ずな行動で、しばしば人を驚かせる。 年齢（　）　性別（　） J：慎み深い性格で、パーティーにはあまり出ない。 年齢（　）　性別（　） ご協力ありがとうございました。

【言語資料】

Fitzgerald,S.F. 2000. “Babylon Revisited,” in the collected short stories of F.Scott Fitzgerald. London : Penguin Books.

野崎孝訳 1990.「バビロン再訪」『フィッツジェラルド短編集』新潮社.

沼澤洽治 1990.「バビロン再訪」『バビロン再訪　フィッツジェラルド短篇集』集英社.

村上春樹訳 1999.「バビロンに帰る」『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック 2』中央公論新社.

【参考文献】

青野篤子・森永康子・土肥伊都子 1999.『ジェンダーの心理学』ミネルヴァ書房.

Bakan, D. 1966 *The Duality of Human Existence.* Chicago : Rand McNally.

Basow, S.A. 1992 *Gender:Stereotypes and Roles(3rd ed.).* CA : Pacific Grove.

土肥伊都子 1999.『ジェンダーに関する自己概念の研究　―男性性・女性性の規定因とその機能―』多賀出版.

ジョルジュ・ムーナン 1980.『翻訳の理論』（伊藤晃訳）朝日出版社.

Hayakawa, S.I. 1978. *Laguage in Thought and Action(4th ed.).* NY : Harcourt Brace Jovanovich.

（大久保忠利訳 1974.『思考と行動における言語（原書第三版）』（岩波現代叢書）岩波書店）

Hervey, S. & Higgins, I. 1992. *Thinking Translation : A Cource in Translation Method : French-English.* London : Routledge.

平子義雄 1999.『翻訳の原理』大修館書店.

伊藤裕子 1978.「性役割の評価に関する研究」『教育心理学研究』, 26, 1-11.

伊藤裕子 1997.「高校生における性差観の形成環境と性役割選択―性差観スケール(SGC)作成の試み」『教育心理学研究』, 45, 396-404

柏木恵子 1967.「青年期における性役割の認知」『教育心理学研究』, 15, 193-202.

柏木恵子 1972.「青年期における性役割の認知Ⅱ」『教育心理学研究』, 20, 48-58.

久能徹・松本桂樹監修 2000.『心理学入門』ナツメ社.

Lakoff, R. 1975. *Language and Woman's Place,* New York : Harper & Row.

Lippa,R.A. 1990. *Introduction to Social Psychology.* Belmont : Wadsworth.

Lippmann, W. 1922. *Public Opinion.* New York : Harcourt Brace Jovanovich.

（掛川トミ子訳 1987.『世論』（上・下）（岩波文庫）岩波書店）

丸山圭三郎 1981.『ソシュールの思想』岩波書店.

丸山圭三郎 1983.『ソシュールを読む』岩波書店.

McConnell-Ginet,S., Borker,R. & Furman,N. 1980. *Women and Language in Literature and Society,* Praeger : Greenwood.
（別府恵子編訳 1989.『文学と社会における女性と言語 ： 言語表現と性差別』弓書房）
村上春樹・柴田元幸 2000.『翻訳夜話』（文春文庫）文藝春秋.
中村桃子 1995.『ことばとフェミニズム』勁草書房.
中村桃子 2001.『ことばとジェンダー』勁草書房.
Parsons,T. & Bales,R.F. 1955. "Family Socialization and Interaction." *American Sociological Review,* 39, 567-578.
れいのるず・秋葉かつえ 1993.『おんなと日本語』有信堂高文社.
Rosenkrantz,P., Vogel,S., Bee,H., Broverman,I., & Broverman,D.M. 1968. "Sex-role Stereotypes and Self-concepts in College Students." *Journal of Consulting and Clinical Psychology,* 32, 286-295.
Sapir, E. 1921. *Language.* New York : Harcourt, Brace & World, Inc.
鈴木孝夫 1973.『ことばと文化』（岩波新書）岩波書店.
Turner,V.W. 1975. *Dramas, Fields, and Metaphors: Symbolic Action in Human Society,* Cornell Univ.
（梶原景昭訳 1981.『象徴と社会』紀伊国屋書店.）
Williams, J. E., & Best, D. L. 1982. *Measuring Sex Stereotypes : A Thirty-nation Study.* Beverly Hills, CA : Sage.

形容詞とジェンダーステレオタイプ
—類義語間に見る共示の違い—

2004年3月31日　　初版発行

著者　永野麻季

監修　霜崎　實

発行　慶應義塾大学 湘南藤沢学会
〒252-0816　神奈川県藤沢市遠藤5322
TEL:0466-49-3437

Printed in Japan　　印刷・製本　　ワキプリントピア

SFC-2003-003